

ウクライナ戦争への 危うさ

時間と空間

ロシアがウクライナに侵攻して3か月が経つ。

両者一進一退の情勢で、全く出口が見えない。

ロシア大統領プーチンの武力による現状（国境線や他国の政治体制の）変更の目論見は、現代の世界秩序では許されるものではない。しかし、識者の解説を聞くと、ロシアと東欧諸国との密接な関係やしがらみは8世紀ころまで遡るらしい。8世紀といえば、日本は平安時代である。

歴史とは恐ろしいものだと感じる。

近代の価値観で、そして、極めて発達した文明のなかで生活していても、1000年という時間を跨いだ「歴史」から脱却できないのか。

「大中華思想」というものがある。中華が天下（世界）の中心であり、その文化・思想が神聖なものであると自負する思想・価値観・道徳秩序を指す。中国は4000年前から国家の体裁を持ち、周辺諸国から朝貢外交を受けてきた。19世紀に欧米列強がアジアに進出してから約100年が沈滞した時期であり、私たちが抱く中国の印象はこれに基づく。中国の南沙諸島や尖閣諸島に対する行動の底に、これ以前の長い時間があることを想像すると、「納得」がいく。日本は明治維新でいきなり「国際化」し、「近代化」した。アメリカが建国したのは1776年である。4000年の歴史と比較すると、いずれも「成り上がり者」である。



← 目黒先生 読書中

帰宅してニュースを見る。

戦争は情報化され、人工衛星やドローンが時々刻々と戦況をとらえる。SNSを含めたメディアは、ミサイルを受け爆発する戦車の映像を私たちに見せる。そして「東部地域では進軍するロシア軍をウクライナ軍が押し戻している模様…」「西側の最新兵器が投入され…」とまさに「一進一退」である。

隔絶された空間で、夕食を食べながらニュースを見ている。見ながら「応援」する私がそこにいる。プロ野球を見るような感覚で、「よし、銀次ここで打てば逆転だ」というように。

危うさにハッとする。「危うい」のはこの感覚である。

戦車が爆発する瞬間は、人が死ぬ瞬間である。そこにいるのは現実の人である。

ニュースでの戦争報道も、以前は1番のトピックだったが、気が付くと、時間の割き方とともに2番、3番となることが多くなった。日常の陳腐なものになってきたのか。

(佐藤貴之)

ウクライナ危機関連本を購入し、職員室前の廊下に置きましたので、ぜひ読んでください。そのいくつかをここに紹介します。

・「**ロシアを知る**」【著】池上 彰/佐藤 優
ロシアの裏の顔から表の顔までを描いた異色のロシア本

・「**サクッとわかるビジネス教養 地政学**」
【監修】奥山 真司
地政学って知っていますか？世界情勢を理解するには「地政学」が必須です！

・「**紛争でしたら八田まで**」【著】田素 弘
地政学リスクコンサルタントとして勤める八田百合の仕事は、地政学に基づいた知性と、ちょっとした荒技で世界中の事件を解決すること。そんな彼女に依頼を出してきたのは…

・「**地球の歩き方 ロシア ベラルーシ ウクライナ コーカサスの国々**」
旅行ガイドから、ロシア、ウクライナがどんな地方なのかわかります

ウクライナ危機 関連本 購入しました

図書館購入雑誌を7月号から一新しました

7月号より、購入雑誌を一新しました。さらに、**職員室前廊下に置くようにしましたので、通りがかりに手にして見てください。**入荷したいこの場所に置き、バックナンバーは図書館に置くようにします。

・Newton

最新の科学情報をわかりやすくビジュアルに掲載された驚きと興奮のサイエンスマガジン。

・大学への数学

高校数学を常に高い視点から捉え、個々の問題の縦横の関連性を自然な発想で解き明かし、読者をより高いレベルへ導くことをメインテーマとしています。

・OZ magazine

「よりみちによって、小さな幸せを発見する」をテーマにした女性向け情報誌。

・Casa BRUTUS

ファッション、建築、デザイン、インテリア、食、アートなど、暮らしのデザイン誌。

・non・no

ファッション＆ビューティ誌。好感度が高く、可愛いおしゃれが大好きな子のための情報が満載！

・dancyu

「知る」は、おいしい。全国の食いしん坊のための食と暮らしを豊かにする体験型メディア。

・散歩の達人

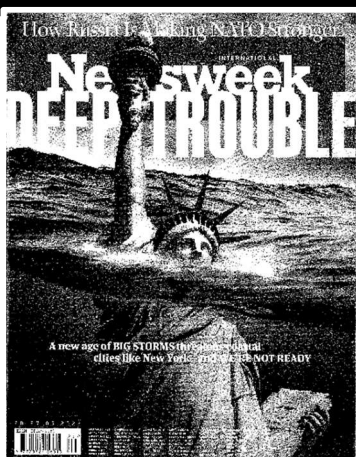
街を冒険する人へ。美味しいもん、喫茶店、商店街、横丁、ヘンなもの……そして、人、街をじっくり歩きましょう。きっと元気をもらえます。

・日経トレンディ

ビジネス、商品、情報に関するトレンドを先取り。



そしてさらに Newsweek も！



『ニューズウィーク』は、主に政治や社会情勢などを扱うアメリカの週刊誌です。海外の雑誌を見たことがありますか？

『ニューズウィーク日本版』という、日本で編集・発行されたものもありますが、購入するのは、アメリカから輸入する原版です。直にアメリカに触れてください。皆さんの読解力を試すチャンスにもなることでしょう。

「LGBTQ+」「SOGI」に関する本を集めました

6月は「プライド月間」といい、LGBTQ+の権利を啓発する活動・イベントが積極的に実施される月です。1969年6月27日、LGBTがよく集まっていたニューヨークのゲイバー「ストーンウォール・イン」にて、不当な踏み込み捜査を行なった警察が客と衝突した「ストーンウォール事件」に由来するものです。

性の多様なありかた、考え方は、日常に浸透してきましたが、世代により、地域により、まだまだの部分もあります。

図書館前廊下には、「LGBTQ+」「SOGI」「フェミニズム」に関する本を集めましたので、「わかっているつもり」ではなく触れてみてください。

